

大館市教育委員会会議録

日 時 令和6年11月22日（金）
午後3時30分
場 所 大館市立長木公民館
第1，2研修室

大 館 市 教 育 委 員 会

大館市教育委員会会議録

1	開会の日時	日 時	令和 6 年 1 1 月 2 2 日（金）		午後 3 時 3 0 分
	及 び 場 所	場 所	大館市立長木公民館		第 1， 2 研修室
2 出席委員の氏名					
教育長職務代理人		山 田 和 人		委 員	工 藤 啓 子
委 員		根 田 穂美子		委 員	小笠原 正 卓
3 欠席委員の氏名					
4 委員以外の出席者職氏名		(なし)			
5 出席した職員の職氏名					
教 育 長		高 橋 善 之		学校教育課長補佐	柴 田 賢
教 育 次 長		成 田 浩 司		学校教育課長補佐	工 藤 貴 胤
教 育 監		長 岐 公 二		生涯学習課長補佐	羽 沢 秀 則
教 育 総 務 課 長		北 林 香 子		中 央 公 民 館 長	外 館 志
学 校 教 育 課 長		鈴 木 明		歴史文化課長補佐	篠 村 朋 子
教 育 研 究 所 長		米 澤 貴 子		教育総務課総務係長	柳 谷 真 希
生 涯 学 習 課 長		畠 山 慶 子			
歴 史 文 化 課 長		関 智 仁			
教育総務課長補佐		宮 崎 史 人			
6 会議録署名委員 教育長・根田委員					
7 会 議 書 記 教育総務課 総務係長 柳谷 真希					
8 教育長報告					
(1)		城西小学校通学路の歩道拡幅工事について			
(2)		第 3 4 回大館市生涯学習フェスティバルについて			
(3)		令和 5 年度大館市北地区コミュニティセンターの指定管理者業務に関する評価について			
(4)		餅田地区のニホンザリガニ生息調査について			
9 議 事					
協議第27号		令和 6 年度大館市一般会計補正予算（第 8 号）案			
10 その他					
(報告) 事故報告 1 0 月分					
次回 1 2 月 2 0 日（金）中央公民館 多目的室					

教育長が教育委員会に報告する事項

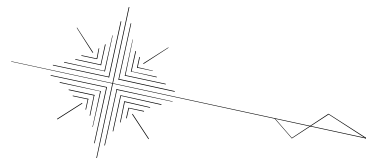
令和6年11月22日

担当課（教育総務課）

報 告 事 項	報 告 内 容
（１）城西小学校通学路の歩道拡幅工事について	城西小学校通学路の歩道を拡幅する工事を12月2日から着工します。 【経緯】 ・城西小学校周辺は交通量が多いわりに歩道幅が狭く危険。 ・令和3年度に学校から要望があり、以来、重要な路線として対策を検討。 ・市道整備の担当課で、「城西小学校の通学路が国補助の対象になりうる」と歩道拡幅工事費を予算措置。 ・国補助の申請には、狭く危険な道路であることのほか、地域の連携により安全確保に取り組んでいることが要件となる。→地域でグリーンベルトの塗装実施、オレンジ隊見守り、コミュニティスクールが組織化されていたこと等により可能になった。 【工事の概要】（別紙図面参照） ・城西小学校敷地に接した、市道「一中城西線」の総延長244m。 ・歩道幅員は縁石を含め2m。 ・令和7年度までの2か年計画 （令和6年度工期は12月2日～3月31日） 【敷地内の樹木について】 ・道路が狭いため、歩道は学校の敷地内に新設する形となり、敷地境界にある樹木は撤去する。 ・校門脇の2本の桜の木は残してほしいと学校や地域から要望があり、樹木医の意見を仰いだところ、樹齢が長い方の個体は特に樹勢も弱っていて、移植は困難とされたため、1本のみ移植する。 ・保護者にはPTA総会において教育総務課から、地域の方々には学校から説明し、了承済み。

市道一中城西線歩道新設工事

(令和6年12月2日～令和7年3月31日)



令和6年度施工箇所

樹木撤去 (12月2日～)

桜撤去

桜移植

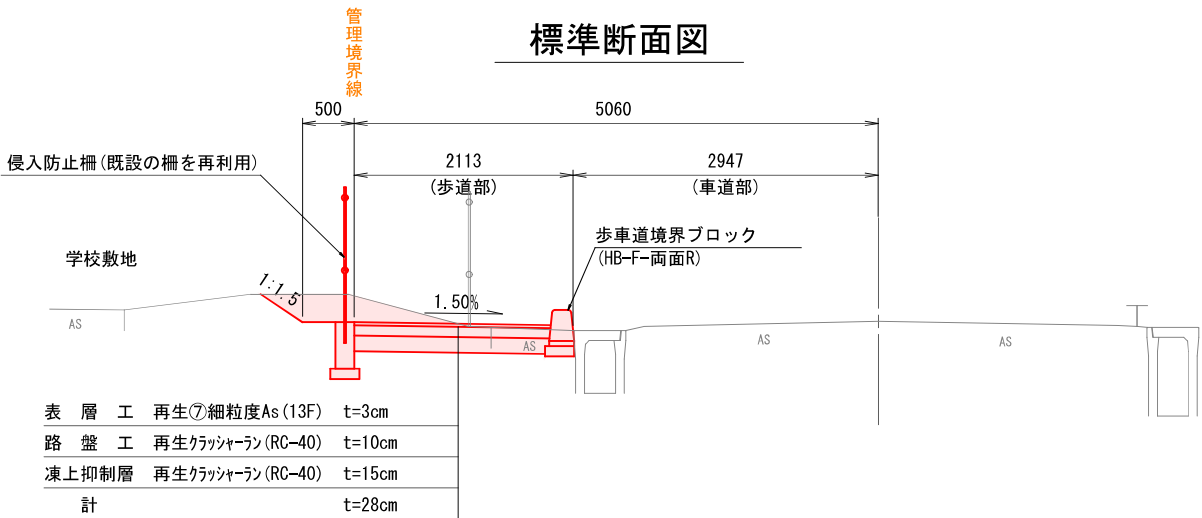
令和7年度
施工区間

第1工区 (12月2日～)

令和7年度
施工区間

第2工区 (～3月31日)

アスファルト舗装 (3月中旬～3月31日)



教育長が教育委員会に報告する事項

令和6年11月22日

担当課（生涯学習課）

報 告 事 項	報 告 内 容
（２）第３４回大館市生涯学習フェスティバルについて	１．実施期間 ９月２８日及び２９日をメイン開催日に、９月から１０月の２か月間(生涯学習強調月間) ２．会場 中央公民館ほか１２会場 ３．期間中の来場者数 ８，９８２人（前年度６，１４７人） ４．主な行事及び来場者数 ９月１日 室内楽・弦楽四重奏 第２回解体新書 松田鉄雄トリビュートコンサート （ほくしか鹿鳴ホール８０人） ９月６日 布谷史人 濱倫子 マリンバ・ピアノ デュオ・コンサート（ほくしか鹿鳴ホール２８５人） ９月８日 第２４回ハチ公コンサート in ほくしか鹿鳴ホール（ほくしか鹿鳴ホール１，１００人） 第３３回いとく・Ｓ＆Ｂ杯ちびっ子健康マラソン大会（ニプロハチ公ドーム１，８００人） ９月１３～１４日 第３回市民交流センターまつり （市民交流センターほか６６３人） ９月２８～２９日 第２７回北コミセンターまつり （北地区コミュニティセンター９８０人） １０月６日 鳥潟会館庭園お茶会～国名勝指定を記念して（鳥潟会館２４５人） １０月１８～１９日 第２０回大学祭「結～手をつなぎ、心をつなぐ～」 （秋田看護福祉大学２７７人） １０月２６日 桜楯館フェスタ （大館鳳鳴高校定時制課程 桜楯館２４４人）

教育長が教育委員会に報告する事項

令和6年11月22日

担当課（中央公民館）

報 告 事 項	報 告 内 容
（３）令和５年度大館市北地区コミュニティセンターの指定管理者業務に関する評価について	大館市北地区コミュニティセンター指定管理者基本協定書第１０条に基づき、指定管理者から提出された令和５年度大館市北地区コミュニティセンター指定管理業務に関する自己評価書について、北地区コミュニティセンター運営委員会にその妥当性を諮問し、同委員会からの答申に基づき総合的な評価を行いました。 <u>１．評価項目（個別業務評価）</u> （１）管理業務（４項目） ・館内利用案内がわかりやすく行われているか ・施設の利用状況 ・利用者の安全が配慮されているか ・環境への配慮がされているか （２）使用許可及び料金収受（３項目） ・使用申請書の受付・許可が適正に行われているか ・利用料金が適正に収受されているか ・利用料金の減免申請が適正に行われているか （３）施設の維持・保全（４項目） ・施設の施錠と鍵の保管が適正に行われているか ・各設備の保守点検 ・施設敷地内の環境整備（施設内清掃、草刈り・除雪等） ・小破修繕の発生及び処理 （４）利用者対応（３項目） ・適正な人員の配置 ・利用者に対する職員の接遇 ・利用者の利便性の向上が図られているか （５）自主事業（３項目） ・自主事業計画書が提出されているか ・自主事業が積極的に行われたか ・事業の内容などの周知、広報を行っているか <u>２．評価基準</u> A あらかじめ設定された計画等を上回る成果が得られた場合 B 概ね事業計画等どおりの成果が得られた場合 C 事業計画等を下回りそれを達成するための努力を要する場合 D 実施している事業・サービスそのものに問題が認められ改善を要する場合

3. 評 価

評価項目	指定管理者自己評価	運営委員会評価
(1)	A	A
(2)	B	B
(3)	A	A
(4)	A	A
(5)	A	A

4. 総合評価

「A」

11月13日付けで指定管理者「株式会社やたて」へ通知。

5. 運営委員会の総括

年間65,509人の利用者があり、4年度より6,000人ほど増加した。目標としていた年間60,000人を達成した。

使用許可及び料金収受の項目については、インボイス対応等、問題なく履行できていたためB評価とした。

コロナ禍を経てWi-Fi設備を強化したことにより、eスポーツを行う若者の利用者が増えた。またカードゲームやボードゲームの会場としての施設利用もあり、ゲームを通じた世代間交流の場にできないか。

高齢者中心のサークルが減少傾向にある中で、幅広い世代の利用者を呼び込めるよう、企画、周知に努めてほしい。

6. その他

高齢化によるサークルの講師不足の問題があり、ポスター等で講師を募集したい旨相談があった。施設運営者として協力体制を構築していく。

教育長が教育委員会に報告する事項

令和6年11月22日

担当課（歴史文化課）

報 告 事 項	報 告 内 容
（４）餅田地区のニホンザリガニ生息調査について	10月26日（土）、餅田地区のニホンザリガニ生息調査を実施しました。 同地区での調査は平成28年以来8年ぶりで、大館鳳鳴高等学校生物部の協力を得て行いました。 コドラート法により10区画に分けて行われた前回の個体数推定調査では、1区画当たり6～10数匹を採集し、生息個体数は約1,939個体、1㎡当りでは約16個体であると推定されていました。 今回の調査では、オス3匹、メス5匹が採集されたことから、同地区の生息環境が良好に維持されているものと考えられます。 今後も引き続き指定地水系や同地区などの生息調査を行い、生息環境を把握するとともに、飼育展示などを通してニホンザリガニ保護の意識を啓発するよう努めてまいります。 ※コドラート法・・・調査地を一定の大きさの区画に分け、それぞれの内部を標本とみなす調査法  餅田生息地  捕獲状況  捕獲状況  確保個体

議 事 の 経 過	
	開会 午後3時30分
教育長	ただ今より教育委員会会議を始めます。 会議録署名委員については、私と根田委員にお願いします。 会議録についていかがだったでしょうか。 (「異議なし」の声あり) それでは、承認とさせていただきます。 では、4の教育長の報告事項をお願いします。
各課長	(「(1)城西小学校通学路の歩道拡幅工事について」、 「(2)第34回大館市生涯学習フェスティバルについて」、 「(3)令和5年度大館市北地区コミュニティセンターの指定管理者業務に関する評価について」、 「(4)餅田地区のニホンザリガニ生息調査について」 を資料により報告)
教育長	ご意見、ご質問はございませんか。
委員	城西小学校の通学路の歩道拡幅についてですが、経緯を拝見しますと、地域でのグリーンベルトの塗装実施やオレンジ隊見守り、それからコミュニティスクールが組織化されたことなどによって可能になったという国の補助の申請なのですが、これを反対側から捉えると、この要件があれば、今後も各校にある危険箇所に応用できるとの解釈で、他の学校も取り組む意義があるのかなと、そういう理解でよろしいでしょうか。
教育総務課長	市道なので、こちらの工事を担当しているのが土木課になります。 これは、国の交付金と聞いておりますけれども、こちらに示しているほかに細かい条件があるのかどうかを確認しないと、この要件ですべてO.Kなのかは現時点ではちょっと言い切れませんので、確認します。
委員	ありがとうございます。 学校訪問していると、「ここ危ないな」というのが学校に近付くにつれてありますので、このことについて各学校に周知をしていただいて、そういうところも環境が改善されると、なおありがたいと感じます。 あと、中央公民館にお伺いします。 北コミの利用者には若者が増えてきて、eスポーツを行うという新しいことが出てきたと思うのですが、これは、機材も全部持ち込んでeスポーツの活動をしているという理解でよろしいでしょうか。

中央公民館長	はい。北コミには、前に東光コンピュータサービスで講座を開いていた部屋がありまして、その部屋はW i - F i 環境がすべて整っていて、参加者が車のハンドルやボクシングといった用具を自前で持ってきて、参加しています。
委員	すごく賛否両論あるのは理解していますが、公共施設の新しい使い方可かなと思うので、そういう方々にも開かれると非常にいいことかなと思います。
教育長	他にはございませんか。なければ、報告はこれにて終わらせていただきまして、議事に入ります。説明をお願いします。
各課長	(「協議第27号 令和6年度大館市一般会計補正予算(第8号)案」を資料により説明)
教育長	ご意見、ご質問等はございませんか。
委員	出川のけやきとは、どこにあって光熱費として何が必要なのか教えていただきたいです。
歴史文化課長	出川地区に大きいけやきの木があり、その木の幹がほころのようになっていて、そこに御神体のようなものがあります。昔から地元の方はそこをお参りされているというところで、昭和50年代に少し枯れるといった危機に瀕しましたが、当時の社会教育課で手を入れたようです。 そのときにトイレを作り、そこに電気をつけて換気扇を回しています。常時稼働しているわけではなくて、冬期間は閉鎖しています。 開けているときは、タイマーで電気をつけて換気扇を回していますので、そういった電気料金です。
教育長	他にございませんか。よろしいでしょうか。それでは承認として進めます。 その他になりますが、今月は教育委員の学校訪問という形で、委員の方々にも学校等の施設を見ていただきましたので、ご感想なりいただければと思います。
委員	今年度もバラエティに富んだいろいろな学校、施設を拝見しました。毎年そうなのですが、勉強になりました。 学校に行って感じたのが、まず子どもたちが例外なく笑顔で勉強、活動に取り組んでいて、それぞれの年齢で自主性を発揮していて非常に頼もしい姿を拝見できました。 小学校では、複式の学級を何学級か拝見したのですが、これはちょっ

教育監	と心配な面があります。 1つの複式学級が8名、5名とちょっと人数が多い複式学級があって、そこが先生1人で支援の先生がいたり、何か措置があって先生がもう1人いたりだいいのですが、そこに特別な支援が必要なお子さんがいたりすると、学習として、生徒指導として大丈夫なのかなと、複式学級の難しさも見えた訪問でした。 子どもたちはもちろんその環境でということで、保護者も含めて理解をし、学校活動はしていると思うのですが、その辺は、単独の学級だったらなと想像してしまうところがあったので、そこが少し心配だなと思います。 比内中学校の学校訪問で、校長先生から伺ったのですが、前に先生が脳出血で学校で倒れて、そのまま搬送されて緊急に手術が必要だったということがあったそうです。 そのとき校長先生が困ったのが、手術をするにあたって、家族の同意が必要だったため、どの家族から同意を得られるかというのを探すのに苦労なされたということ伺いました。 これは、危機管理として非常に重要で、各学校に任されているのかもしれないませんが、管理職の先生が連絡つかないといった状況もあり得るわけで、個人情報ですけれども、その教職員のご家族に緊急のときに連絡がつくような統一したフォーマットやアクセスできるものがあると先生方は安心なのかなと思いました。 また、若い先生がすごくベテランかなと感じるような、この子たちと1年しか付き合っていないのに、ここまで入り込んで細かい発言を拾い上げてといった素晴らしい授業も拝見しましたし、非常にいい訪問ができたなと思いました。 あとは、「わわわde子育てカフェ」の代表の島田さんにもお伺いしたのですが、やはり女性がいろいろなことがありながらも活躍できる社会というのが、これからの日本に必要なだなというのを2時間でしっかり勉強させていただきました。私個人的にも女性の方々を預かる職場ですので、そういうところもしっかり取り組んでいきたいなと感じた学校訪問でした。 おそらく、ご覧になった学校は、複式の環境になってからまだ経験が間もない学校だったと思うのですが、経験を積んでくると、例えば体育や音楽をいろいろな学年と合同でやって、その分、余剰人員を作って、複式学級の国語を2学級にするなどいろいろな緩和策がある。 そういう意味でも、今年度は市教研の中の複式を持っている学校同士で授業交流をした方がいいのではないかという提言をして、今年から動き出している。例えば矢立小学校のように長年複式をやっている学校は、その複式に伴うリスクをうまく緩和しながらやるノウハウを持っていますので、そういう経験値のある学校から具体的に情報交換しながら進んでいくということが大切だろうというのが、まず第一点です。
------------	--

	それから、人数が少ないということについては、大館型授業を展開していくデメリットになりますので、それを解消するために花岡小学校と矢立小学校の同学年の子どもたちをオンラインで結んで、同じ授業を別々のところで同時にやっていくという試みを今やっていて、準備に時間がかかったり手間がかかったりするので、まだ日常的にやってはいないのですが一応形にはなってきました。 これをいかに効率的にやっていくかというレベルまでできましたので、これを広めながら複式のリスクを軽減していければなと思っています。
委員	ありがとうございます。非常に頼もしい言葉を伺いました。 基本的なことなのですが、何人になったら複式になるのでしょうか。
教育監	第1学年を含む学年は、8人までが複式です。 第1学年を含んでいなければ、16人です。
教育長	先ほどの、緊急の手術等が必要な場合の家族の同意を得るための情報ということについては。
教育監	今ご指摘あって、確かに盲点だったなと思いました。 学校現場で子どもがけがしたときの緊急連絡先は、念入りに調査をしてリストアップしているのですが、教職員に何かあったときの緊急連絡先をきちっと把握しているかということ、学校ごとに漏れがあったりします。今のご意見は基本的に学校で整備していくものだと思いますので、こういったことがあったということを各学校に周知して、教職員に万が一のことがあったときの緊急連絡先をきちんと保存していくというのをやっていくべきだろうと思います。 特に今は、携帯電話番号で、個人の連絡先は全部個人の携帯なので、それ以外の番号は把握できていないところもあります。そこはしっかりやっていきたいなと思いました。
委員	感想です。 まずは、本当に大変忙しい時期だと思うのですが、企画してくださった教育研究所長初め受け入れてくださった施設や学校等に感謝申し上げます。 昨年度は、私用で訪問できなかったのが久々に見せていただきましたが、どこの学校でも子どもたちが落ち着いていて、真剣に課題に取り組んでいる姿が見られたなと思っています。 改めて思うのですが、当たり前のことをきちんとできているなというのを感じました。 学習規律であるとか、子ども同士の人間関係、子どもと先生の人間関係、小中連携、そういった当たり前のことができて、その基盤の上にこの大館型の授業が成り立っているなというのを感じたところです。

委員	先ほど申しました当たり前のことって、ずっと昔からやってきたことですよね。何が変わってきたのかと考えたときに、いわゆる目指す子ども像がきちんと明確になって、それが先生方、ひいては市全体で同じ姿を目指して共有できて頑張っているということが今のいい形につながっているのかなと思っています。 先生方が大変な中、いろいろ頑張ってくださっている姿を見て、本当に感心したところです。 特に、今お話のあった複式の学校では本当に大変だなと思っていて、やはり「わたりの時間」が手をかけられないわけですね。先生方の負担軽減、子どもの学びの保障を考えたときに、まず定数が決まっているので仕方がないのですが、何かしらの支援ができればいいかなと考えたところです。 施設訪問でいろいろ回らせていただきましたが、小中学校以外でも民間等で子育てに関して頑張ってくださっている方がたくさんいるのだなということを知ることができました。行政としても、いろいろな課をまたいでつないで、頑張っている方々に支援ができればなと思ったところです。 本当に、11月たくさん勉強させてもらいました。ありがとうございました。 本当にお疲れさまでした。 先生にもいろいろお世話になりましたし、今回は例年と違う新しい選定をしていただいて、楽しく、なるほどなと思いながら回らせていただきました。 まず、一番最初にホテヤさんに伺ったときに気になったのは、小学校との連携が私たちはできているのではないかなと思っていたのですが、園長先生があまり連携ができていないという内容のお話をされていました。 ですが、ただそれは学校の先生方も多忙でありますし、いろいろな行き違いもあるかもしれませんので、再確認していただきたいということも感じました。 それから、一番最後に行った比内中学校では、新入生体験入学というのを見させていただいて、扇田、比内地区の3小学校の6年生の子どもたちが比内中学校の先輩の皆さん方と質問やら何やら和気あいあいと楽しく過ごしている風景がいまだに忘れられないくらい記憶に残っております。 中学生も、小学生たちをいかに楽しませたりリラックスさせてあげようかというその意気込みが感じられて、本当に楽しく拝見させていただきました。 懇談会のときには、委員も話されましたように、先生が倒れられたことをきっかけに先生方の連絡先のことについて私も心配いたしました。今度は教育監がしっかりとその辺をやってくくださるだろうなと思って安心しております。 あと、比内中学校の先生が不登校の話をしてくださり、その中で「スペース・イオ」に通っていたお子さんが、秋田市にある第一学院に行くこと
----	---

教育長	の内容をお話しくくださったのです。 私も「桜楯館」の関係で見学する機会とかよくあるのですが、桜楯館、スペース・イオの子どもたちが非常に生き生きと楽しく過ごしているのです。 普通の学校に行けない、何となく行きづらい子どもさんの居場所がしっかりとあって、みんな同じようにイベントをやり、フェスティバルに招待状をいただいて私も案内していただきいろいろ回ったのですけれども、子どもたちが本当に楽しそうに生き生きとして、親御さんも見学に来ていて、とてもよく利用されていました。 もし不安な子どもさんたちがいたら、ぜひそういうところに行って、同じ仲間を見つけて、前向きな楽しさを見つけてほしいとつくづく思いました。 そのことが非常に印象に残ったところでした。 それから、今までFMラジオ放送を聞く機会がありませんでしたが、今回、放送局を見学し、北陽中学校のお子さんたちがやっている姿や、それを支えてくださっている方々が、しっかりと子どものために警察にまで連絡して、安全を確保したり、また周りの人たちがいろいろサポートするなど、いろいろなことを配慮しながら子どもたちにその場所で放送させてあげている。周りの人の力、手助けのようなもので子どもたちが成長させられているというか、私の知らないところでいろいろな地域の方々が子どもたちを支えてくれているということに本当に敬服いたしました。 それもそうですし、「わわわde子育てカフェ」の嶋田さんとは、初めてお目にかかって、県外の方でありながら大館に来て大館のために一生懸命やってくださっていて、敬意を表しますし、いろいろなお子さんたちのことを真剣に考えてくださって、こんなに大館市の中に女性の力が生かされているということ、目に見えないところでそういう力が働いていて子どもたちが過ごさせていただいているということに感謝いたしました。 複式学級のこともしいろいろありましたけれども、それが男女関係なく大館を支えているようなそんな思いをいたしました。本当にありがとうございました。 今、不登校の子どもたちの居場所という話もありましたけど、大館の場合は「スペース・イオ」もありますし、それから市でやっている「おとり教室」もあります。隣の市になりますけれども「あきたリフレッシュ学園」もごございますし、そういう意味では、選択肢が多いということは、同じ不登校といってもタイプが違いますので、それぞれにより適した場所があるということが1つ強みだなというふうに思っています。 あと、委員からもありましたけど、女性の活躍とか女性の力というのは、異存ありません。まさにそのとおりです。 学校教育自体が女性の先生の方がずっと多いわけで、本当にお力で大館市の教育が支えられていると私も思っています。 そういう意味では、男性だから女性だとかという時代ではないという
-----	---

委員	ことですね。 まずは、教育研究所長ありがとうございました。本当に楽しい時間を過ごすことができました。楽しいという語弊があるのかもしれませんが、子どもたちと先生方の明るい表情を見ることができて、幸せな授業訪問をさせていただいたなという気がしております。 その女子力ということで、私も実は感じたところがありまして、比内中学校の英語の授業だったのですが、これは子どもたちがお互いに家族の中で背が一番高い人は誰とか、体重の重い人は誰みたいな発話をしながら、子どもたちでこう答えて発話してそれに対して答えていくような授業展開があったのですが、そこでリードしていたのはすべて女子でした。 「すべて」と言うと言いすぎですが、ほとんど女子でした。男の子はずっと頭下げて、それに女子が「あなたどう思うの」みたいなことを英語で喋って、男の子は「うーん」というふうにして、そんな感じでリードしてくれるのだろうなというようなことをちょっと感じたところもありました。やはり授業も子どもも先生も、女性がリードしているのかなという感を持ったところもありました。 小学6年生を迎える比内中学校の子どもたち男子3人、非常にいいキャラを醸し出して、6年生の子どもたちが楽しそうに聞いていて、そういう中でいいつなぎ方ができているのだろうと感じた次第です。本当にありがたいひとときを過ごしました。 その中で、もう1つ言いますと、比内中学校のことですが、難聴の子のクラスを拝見させていただきました。私は、授業に行くと子どもたちと一緒にになって、私自身も授業のパーツの1つかなと思って一緒に声をかけたりする場合がありますが、その子は、なかなか発話が難しい子で、「ちょっと難しいけど、こういうこと言ってみようか」と先生に言われたときに、結構上手に言えたのですよね。 それに対して、少し拍手をしてみたりとか表情を和らげたりしたときに、その子はこちらの方を向いてにこっと笑ってくれたのです。その笑顔がもう忘れられないのです。 ですから、行ったからには少しは僕らも何かの役に立てるといいなということで、本当に常々考えながらさせていただきまして、また今回もいい経験をさせていただいたなと感謝申し上げたいと思います。 あの子に明るい未来がやってくることを信じたい、と思っています。 そういう中でもう1つ印象に残ったことが、やっぱりFMですね。 小山さんが子どもたちにおっしゃっていることは、「自分の言葉で言おう」ということなのです。自分たちのことを自分の言葉で言おう、そしてそのストーリーを自分たちで考えようという、まさしく大館型授業の典型だったのです。 そのときに彼女が言った言葉に非常に私もはっとさせられたことがありまして、「このマイクの向こうには世界の人たちがいるんだよ、そういう思いで喋るんだよ。」ということをお話してくださったのです。
----	--

教育総務課長 教育長	自分の思いを子どもたちにそういう形で伝えてあげられている、そういう現場があるということは、子どもたちは幸せな時空を小山さんと一緒に共有できているのだろうなということを感じた次第です。 本当に幸せな子どもたちだと、その場で感じたところです。 もう1つだけお話させていただきますと、「わわわde子育てカフェ」で、行政に頼れないところ、この隙間をしっかりと民間で支えてくださっていて、しかも、何としてもこの地域をそういう形で子どもと親を守るだけでなく、それが自分の収入にもなって社会にも還元できるということをしかりと考えてくださっている。こういう方々がこれから世の中を変えていくのだろうなということを感じたところでした。 需要と供給のあるところに必ず経済が成り立つはずで、そこをしっかりと支えてくださって、それが大館の隙間をしっかりと支えてくれているのだろうなということを、彼女の気概、志というようなものを僕らが忘れていたということのことをちょっと思い出させていただいたような気がした次第です。 今回の教育訪問、いろいろな面で考えさせていただいたし、また自分を奮い立たせる訪問でもあったなと感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。 （「来月の開催日程」について） 委員の皆さまから何かございませんか。 それでは、以上を持ちまして、教育委員会会議を終了いたします。
	会議終了時刻 午後4時30分